

審査委員 古賀 紀江

本年度の最優秀賞に輝いた作品は、神奈川県住宅供給公社の賃貸集合住宅である。1951年に竣工した同公社による第一号団地の建て替え事業という背景もあり、公社賃貸住宅の新しいかたちを創出しようという意気込みに満ち溢れた作品となっている。特筆すべき点は次の二点である。

第一は、中庭が象徴する「閉じない」住まい方を実現しようとしたデザインである。日常の動線となる中庭に面した共用廊下からは中庭を取り囲む家々が視界に入り、住む人同士に自然なつながりを持たせ得る仕掛けとなっている。中庭への扉に鍵はなく、近隣の人々の自由な出入りが可能である。ここで中庭はコミュニティや絆を具現化する手法として明確に位置づけられている。中庭に面した集会所、サブエントランスに設置された防災備蓄庫は地元自治会にも開かれている。少子・高齢社会、地域防災が大きなテーマである今日の社会において「地元自治会」との連携は意味深い。集会所を含む中庭に防災拠点や高齢化した地域の福祉サービス拠点等の役割の付与を可能にした本作は、地域のコアを提供する役目を果たす新たな公的集合住宅のモデルとしての価値を持つ。

もう一点は、住戸計画である。集合住宅の平面は縦長になりがちであるが、本作品では「横長浅」のプロポーションを採用している。各住戸は規模に関わらず共通仕様の水廻りユニットが共用廊下からバルコニーに至る片側に配された一室プランで、必要な場合は間仕切ることができる。開口方向に浅い形状はバルコニーと共用廊下の中の風の通りを容易にした。バルコニー側に配されたキッチンには窓がある。中庭型の選択は南面志向にとらわれないという宣言であり、横長浅・水廻りユニット1室平面と共に多様化したライフスタイルに対する解の一つと捉えられよう。

本作品が試みた、公的な集合住宅がいかにして地域や個人との関係を支えるかという課題への挑戦は意義深い。今後居住者の評価を経てさらなる進化を期待する。